

食と農と村を考える情報誌

FURUSATO YUME TOYAMA

ふるさと

# 夢とやま

NO.40

ふるさとウォッチング.1 / 射水市金山地区

ため池と森がもたらす恵みと魅力を次世代に!

ふるさとウォッチング.2 / 富山市山田村

里山の冬を満喫〜とやま帰農塾「やまだ村塾」〜

とやま農山漁村インターンシップ / 魚津市松倉地区, 南砺市東中江地区

富山の農山漁村で学生たちが奮闘!

中山間地域チャレンジ支援事業 / 魚津市松倉地区

和綿の復活による地域再生を目指して「WATA・HATA」

魅力たっぷり!とやまの6次産業化 / 原農園, Inaizumi Farm Orchard Café

100を超えるアイテムを開発 / 里山の果樹園カフェでゆったりと

カモ親子の農村日記

美しい散居村を潤す (庄川用水合口ダム)

トピックス

富富富 / とやま型スマート農業の推進

とやま帰農塾2019 / 第8回「とやまの農山村写真展」

# ふるさとウォッチング



射水市金山地区

## ため池と森がもたらす恵みと魅力を次世代に！

射水市金山地区は、北陸自動車道の小杉IC周辺の青井谷・宿屋・野手・浄土寺・上野・平野の6集落から成り立っています。これら6集落が共同して取り組んでいる農業用水水源地域の保全や豊かな里山の再生、地区内にある金山小学校の独自のふるさと教育の3つの特徴的な活動を紹介します。

### ため池がもたらす恵みを伝える

金山地区の6つの集落は、集落毎に営農を集団で行うことで効率的な水田農業が行われています。地区には、大小60余りのため池があり、平成20年から6集落で構成された金山環境保全会が、農業用水水源の保全に取り組むことで、ため池が稲作に不可欠なこや、ため池の水源涵養が水害を防いでいること、さらにその水が防火や消雪にも利用



▲ため池の生き物調べ



生き物調べ

されていることを地域の共通認識になるよう努めています。特に、子どもたちにため池の大切さを学んでもらおうと、県の「美の里保全活動支援事業」を活用し、金山小学校の児童を対象とした「田植え・稲刈り体験」「ため池見学」「ため池の水抜きと生き物調べ」などを実施しています。子どもたちからは、「田んぼの作業は大変。大切にお米を食べようと思った。」「ため池の水を防火用水に利用する仕組みが良かった。」といった感想が寄せられます。こうした活動は、子どもたちにとって、ため池の恩恵を肌で感じる貴重な機会となっているようです。

### ハクチョウの飛来地を守る

この会では、金山小学校区の里山で、「コナラ等の切り出しや下草刈りなどを実施。こうした里山の手入れが新しい樹木の生育を助けることも、適度な採光をもたらすことで、マツタケやカブシミス(シヤカシメジ)といったキノコの自生も徐々に増えてきました。また、薪や木材チップ、シイタケのホダ木といった間伐材の新たな用途も生み出され、里山の活気が取り戻されつつあります。

### 里山の再生に取り組む

昔からキノコの群生地として知られていた金山地区ですが、ここ50年の間に森林の廃棄が進み、倒木した枯木の増加、コナラなど高木の生育により光が差し込みにくくなり、マツタケ等の自生キノコが少なくなってきました。こうした状況を憂慮した地元有志が、平成23年、かつての豊かな里山をよみがえらせようと「金山里山の会」を結成。会員は年々増加し、現在は四十数名を数えます。



白鳥観



松茸

カブシミス



里山の会

金山小学校は、「飛び出せ金山探検隊〜白鳥編〜」と銘打った授業を実施。授業の中で、富山県自然博物館ねいの里職員の指導のもと生息調査体験・学習会を行っています。双眼鏡を使って個体数を数えたり、生態の学習に取り組んだりする中で、郷土の自然に対する愛着が育まれています。こうした活動を見守る地域の方々とともに、ずっとハクチョウに来てもらえるよう、石畑池の環境が守られていくことを目指します。

### 美の里保全活動支援事業とは

集落住民等で構成された団体等が、土地改良施設等を拠点に農村景観と自然環境を保全・再生・紹介し、地域を誇りに思う意識の形成、保全活動の浸透、地域や学校への体験学習の場の提供に要する経費に対し、補助金を交付するもの。



稲刈り体験

田植え体験

# ふるさとウォッチング



## 里山の冬を満喫 ～とやま帰農塾「やまだ村塾」～

とやま帰農塾は、その土地ならではの農山漁村体験や地元住民との交流を移住・定住や交流人口の構築につなげようと、県内10ヶ所で開講されています。

その中の一つ「やまだ村塾」は平成23年度に始まり、今年で8回目。他の塾が春から秋にかけて“農のある暮らし”の体験を中心に実施しているのに対し、本塾は平成29年度から“冬の暮らし”や“雪の楽しみ方”にスポットを当てたプログラムの提供を始めました。

今回は、地域の農産物加工直売所を運営するNPO法人山田の案山子が主体となって、今年2月9日から11日にかけて開講され、首都圏を中心に9名が参加。里山ならではの冬を満喫しました。

### ソリ体験



▲ソリ作りに 試行錯誤

### ソリ滑りで雪を体感!

初日は、まず雪に親しむことを目的に、スタッフの方々の協力のもと、段ボールによるオリジナルのソリ作りと滑走体験からスタート。ソリの出来栄や滑走タイムなどを競い、採点して順位を決めるという趣向で、上位者には地元特産の干しイモやりんごジャムなどが贈呈されました。参加者のほとんどはこうした体験が初めてで、大いに盛り上がりつつありました。

### 雪中ハイイクで雪山と一体に!

2日目は、「立山かんじき(※)」を装着しての雪中ハイイクに挑戦。かんじきとは、深い雪でもあまり足を沈めることなく歩行できる特殊な履物です。参加者は、直前に積もった新雪の感触を楽しみながら山歩きを楽しみました。途中、小高い所から雪上を



▲タイムトライアル!

ダイビングしたり、雪上に背中から倒れこんだり、思い思いに雪の里山を満喫。試しにかんじきを外して歩いてみると、腰近くまで雪に埋もれてしまう参加者もいて、かんじきの威力に感心しきりでした。



ドスン! 痛くない

### 立山かんじき

立山町芦峯寺で古くから愛用され、第一次南極越冬隊に参加した立山の山岳ガイドが使ったことで全国的に有名になりました。地元産マンサクなどの樹木を曲げた円形の枠に、雪面に刺さるツメを組み込んで作られます。昨年、立山かんじき作り職人がただ一人となり、伝統が途絶えることが心配されましたが、最近、後継者が決まって明るい話題となっています。



石崎組組合長から 啓翁様の解説

### りんごの出来を 左右する剪定作業

山田地域では、300mの標高がもたらす寒暖差により、糖度の高いりんごが収穫されています。りんご園では、JA山田の2人の若手生産者から高品質な果実を生み出すための剪定作業を学びました。参加者は、一人ひとり剪定すべき枝を選び、ノコギリ片手に悪戦苦闘しながらも、楽しそうに作業に取り組んでいました。



### 自ら打ったそばに舌鼓

山田地域は蕎麦の産地でもあります。最終日は、蕎麦店「おんもり庵」を営む若林さんの指導のもと、そば打ちに挑戦。地元在来のそば粉を用い、水まわしから生地伸ばし、包丁で切るといったまでを自ら行いました。多少不揃いであっても、苦労して打ち上がったそばの味が格別だったのは言うまでもありません。



▲コンを決める 練り作業



▲生地伸ばしは均等に

一足早い春を届ける啓翁桜  
促成栽培により1月から2月に開花すること人気の啓翁桜は、山田地域を代表する特産品となっています。山田村花木生産組合の石崎組合長からは、栽培ノウハウを確立するまでの苦労談が、また、地域おこし

この枝切ってもOK?



▲りんご生産者への質問タイム

これらの体験のほか、深刻化しているイノシンなどによる農作物被害の状況や獲物の仕留め方、ジビエの楽しみ方などについて、現役ハンターによる講義があったほか、地元の方々との交流会なども催されました。  
山田地域が凝縮された3日間は、単なる観光とは異なり、参加者にとって深く心に刻まれる体験となったのは間違いありません。こうした機会が参加者との土地との結びつきを深め、その関係の継続につながることを期待されます。

▼菅沼集落



## 02 南砺市東中江地区

【日程】平成30年 9/1(土)~7(金)  
7日間

【参加者数】東京や大阪の大学から  
5名(男1名/女4名)

◀相倉集落



▲東中江集落

今年度、新たにインターンシップ事業を実施したのは、南砺市五箇山の東中江地区。古くから和紙づくりの伝統が引き継がれていることから、「五箇山の和紙を学ぶと同時に、様々な地域資源を活かした着地型観光プログラムを考える」をテーマに活動に取り組みました。

五箇山和紙は、国指定の伝統工芸品である越中和紙の一つ。特に世話人の宮本さんが手がけるものは、混ぜものが一切無い自家栽培の楮(こうぞ)100%の和紙です。「悠久紙」とも呼ばれるように千年もの耐久性を持つとされ、その品質は京都の桂離宮や京都御所の修復に用いられるほどです。

期間中、学生たちは、午前には観光バ

最終日には、「自分達が参加したくなる着地型観光プログラム」として、和紙でのスカイランタン作りや、茅葺屋根登りといったユニークなツアーメニューや、人気プロガーを活用した魅力発信など、専攻分野で培った知識と若者ならではの発想を織り交ぜつつ、様々なアイデアの発表がありました。

今後、提案内容を参考に五箇山ならではの着地型観光の考案が期待されます。

発表の準備▶



※「とやま農山漁村インターンシップ」とは、

都市部の学生等を一定期間地域に受け入れ、農林漁業体験や地域づくり活動、住民への聞き取りなどを通して、地域の現状を知り、地域の課題に対して若者目線での解決策を提案してもらうもの。

## インターンシップが 目指すもの

インターンシップの実施期間中、受け入れ地域は若者の笑顔と活気に元気をもらいます。ただ、これを一過性のイベントにするのではなく、提案内容を地域活性化のステップにつなげていくことが大事です。そのためには、終了後も若者とのネットワークを大事にすること、そして何よりも地域の皆さんが活性化に前向きに取り組んでいくことが必要となってきます。



東中江

▼小菅沼・ヤギの杜



▲機械を用いた草刈体験



▲鳥獣害防止柵の設置体験



▲楮畑での作業

富山の農山漁村で学生たちが奮闘!

## 01 魚津市松倉地区

【日程】平成30年 8/24(金)~29(水)  
6日間

【参加者数】東京や神奈川等の大学から  
8名(男3名/女5名)

前年度に引き続き2回目の開催となる松倉地区。今回は「地域での滞在を通して中山間地農業の実態と地域資源を学び、それぞれの課題や可能性を考える」がテーマです。

学生たちは、鳥獣害防止柵の設置体験や機械を用いた草刈体験のほか、地元団体「小菅沼・ヤギの杜」が主催する地域活性化イベントにも参加しました。また、魚津市全体への知見を広めようと地域外にも足をのばし、美しい水利施設として有名な東山円筒分水槽をはじめ、大沢・黒沢の大杉、魚津埋没林博物館、魚津水族館などを視察。連日の猛暑にもかかわらず、地域のために何がで



▲東山円筒分水槽



◀大沢の大杉

きるかを真剣に考えていました。そして迎えた最終日、学生たちは地元の皆さんを前に、A・B2班に分かれて成果を発表。A班の提案は「SNSを活用した地域の活性化」です。来訪者と地域住民が来訪後もSNSでつながり、情報を拡散することが、魅力発信の有効な手段であるとの学生たちの主張に、皆さん納得した様子でした。B班は「農業女子による地域の活性化」を提案。若い女性を中心とした農業関連会社を立ち上げるという大胆な提案で、元気な女性が多いこの地域の皆さんの関心を集めていました。

松倉地区では、これらの提案をどう活かしていくか検討中。2年にわたる開催で、地域内の若手からも活性化への前向きな声がかかるようになったそうです。今後の松倉地区の取り組みが楽しみです。



中山間地域  
チャレンジ  
支援事業の  
紹介

うおづ里山和綿の里づくり

和綿の復活による  
地域再生を目指して

WATA・HATA

柳田をはじめ豊かな里山の風景が広がる魚津市松倉地区。ここでは、地の利を生かし園芸作物の導入や「松倉もちより市」の愛称で親しまれている直売市などの取組みが積極的に行われています。しかし一方で、農業に携わる人の減少や高齢化が進み、担い手不足や遊休農地の増加などの課題を抱えています。

「ワタはな、WATA・HATA（代表：穂苗良太さん）は、日本在来種の綿である『和綿（わめん）』に着目。中山間地域チャレンジ支援事業を活用し、和綿栽培をスタートさせました。



魚津市松倉地区

お花見

### 和綿栽培のきっかけ

穂苗さんは、農業を始めて5年目の農業者。生まれ育った農山村に耕作放棄地が目立ち始めたことをきっかけに、何とか地域を再生したいとの思いが強まり、少ない労力で取り組むことができてインシンなどの被害を受けにくい和綿に目を付けました。

和綿は明治時代まで全国各地で栽培されていましたが、戦後に入ると低価格の輸入品に押され、今では商業目的での生産はほとんどありません。繊維が短く太いことから、和綿で作られた製品には独特の弾力があり、蒸れにくく日本の風土にも適した素材とされています。

そんな国産綿の復活をめざすチャレンジは、平成28年の遊休農地の耕起から始まりました。

### 和綿商品の開発、そしてブランド化

まずは、県外の生産者から譲り受けた種から綿花栽培を開始し、現在、栽培面積は18アールとなりました。

さらに、和綿の栽培だけでなく、商品開発、普及、未来への継承を目指し、穂苗さんは、富山市の寝具店「ねむり家」店長の大郷卓也さん、高岡市で地場産品を扱う「はんぶんこ」

社長の東海裕慎さんとタッグを組んでプロジェクトを立ち上げました。それが「わたはなはじめプロジェクト」です。

「ねむり家」は、収穫された和綿を買い取って商品に加工。代表的な商品の「和綿まくら」は、通気性の良さや適度な固さが評判を呼んでいます。また、「はんぶんこ」は、和綿のブランド化を担当。ホームベージュ等によるPRなどを積極的に展開しています。

さらに、プロジェクトでは、地元はもちろん首都圏でのイベント出展等を通じ、新たな販路拡大を図っています。



▲展示会出展

### 地域を巻き込んだ和綿の普及

和綿の種は地元農家や一般の方々にもお譲りしているほか、5月には苗植え会、8月には和綿のお花見会、10月には収穫祭と、季節ごとにイベントを展開。イベントでは、綿繰り

和綿▼



小学生との栽培

機体験や糸紡ぎ体験、自然をテーマとしたワークショップを行うなど、地域を巻き込んだ和綿の普及に取り組んでいます。

また、滑川市の北加積小学校では「科学の時間」に和綿栽培を導入。児童たちは、穂苗さんから服などに使われている綿が畑の作物であることを学び、心ともに、手植え・収穫体験や和綿を使ったマスコット作りなどを通じ、和綿に触れ、親しんでいます。

### 休耕田の解消と国産綿産地の復活に向けて

和綿が富山県のような降雪地帯でも問題なく育つことが分かったことは、遊休農地の新たな利活用にもつながります。また、秋から冬にかけての農閑期に収穫や調整などの作業を地域の方々と共同で行うことで、新たな働く場の確保にもつながります。

今後は、織物や染め物を行う福祉施設とも連携し、多くの人々の手に取ってもらえるような小物類の商品展開を行い、もっと和綿を身近に感じてもらいたいと考えています。中山間地域の集落や農村の維持、発展を図りながら、時代のニーズに対応した国産綿産地づくりに向け、WATA・HATAの挑戦は続きます。

わたはな WATA・HATA



●生育途中（7月）



●苗植え

●収穫祭



山ぶどう

ラズベリー

さるなし



## 里山の果樹園 カフェでゆったりと

～Inaizumi Farm Orchard Café (稲泉農園)～



カフェ

**おまかせ野菜ご膳**  
(山ぶどうジュースセット) / 2,500円  
(山ぶどうジュース無し) 2,000円  
自家栽培の野菜や果実をメインに、  
一品一品丁寧に作られた料理が並びます。

・湯豆腐ご膳 / 2,000円 **要予約**  
(12月～3月 / 期間限定)  
※1・2月 / 限定10食(土・日のみ)

その他のメニュー  
・珈琲セット(ブチケキ付) : 500円など

### Inaizumi Farm Orchard Café

【稲泉農園】  
代表 稲泉 修

水見市上田1661  
電話 / 0766-72-3545  
営業時間 / (3～12月)月・火・水 11:30～14:30  
土・日・祝日 11:30～16:00  
(1・2月)土・日・祝日 11:30～14:30  
定休日 / 木・金曜日 駐車場 / 10台  
アクセス / 水見インターチェンジから車で約5～6分  
HP / <http://www.ina-farm.com/>

能越自動車道 水見(から)山の方へ少し車を進めると、静かな佇まいの稲泉農園 [Inaizumi Farm Orchard Café] に辿り着きます。農園の入口にはきれいに管理された山ぶどう畑が広がり、その畑を横目に少し歩くと、門のたもとに加工場、果樹園、門をくぐって奥へ進むと、カフェがあります。

代表の稲泉修さんは、58歳まで東京で働いた後、平成11年、妻・蓉子さんの実家がある現在の場所で果樹園を始めました。それから20年経った今では、さるなし、ベリー類、山ぶどう、さるなしなど、季節ごとに様々な果実が実ります。

平成17年に、自家栽培の果実を使ったジャムなどの加工品作りを始め、平成26年にはパート・ド・フリュイ(ゼリー菓子)、平成30年には山ぶどうジュースが加わりました。いずれの商品も無添加無着色で、果実本来の美味しさが生きています。

その時の一番美味しものを、一番美味しい食べ方で召し上がっていたきたいという思いから、平成22年にはカ

### 果樹園

代表の修さんがお話を交えながら季節の果樹園を案内します。(要予約)

### 加工品

・ジャム / 各1,300円(110g)  
・パート・ド・フリュイ / 650円(6個入)  
(贈答用2,500円(10包 / 20個入))

・山ぶどうジュース / 3,500円(200cc)  
稲泉農園の新商品。  
洗みと甘みの濃厚な味わい。

※価格は全て税別です。



### 株式会社原農園

代表取締役 原 忠

富山市婦中町河原町  
経営面積 / 約30ha  
水稲、大麦、大豆、WCS  
野菜(白ネギ、ブチヴェール、レンコン他)  
果樹(ラズベリー他)、ジャカク

魅力たっぷり!

# とやまの 6次産業化

「まさか帰ってくるとは...」  
「自分でも、こんなことしてるなんて...」  
とほほ笑むふたり

## 100を超える アイテムを開発

～(株)原農園 加工部～



・ジャム各種 / 400～600円(120～200g)  
・乾燥野菜各種 / 170円(10～25g)  
・ドライフルーツ各種 / 300～360円(25～40g)  
・粉しよが 500円(15g) など

富山市婦中町の(株)原農園は、平成29年度全国優良経営体表彰で農林水産省経営局長賞を受賞した主幹作を中心とする担い手農家が営み、原忠さん、やす子さん夫妻は、無人ヘリ防除、水稲のV溝乾田直播などの新技術「ブチヴェール」といった新規作物などに新しい農業に挑戦し、本県農業の技術の確立に努めておられます。

平成20年頃から、近所に配るしかなかったハウス白ネギの規格外品で、すぐ食べられて保存も効く乾燥ネギを商品化。これをきっかけに「原さんちの乾燥野菜」としてシリーズ化し、富山市内のスーパーのインショップや地場農産物販売所「地場もん屋」総本店などで通年販売されています。

そんな二人を見て育った娘の千沙子さんは、短大・専門学校を卒業後、県外の会社勤務を経て、平成25年に従業員としてリターン就職。昔からお菓子作りが好きだった千沙子さんが加工部の責任者となってからは、「ジャム加工も開始しました。加工原料用にラズベリー、ブラックベリー、ブドウ、イチジク...と次々に果樹栽培にも着手し、今では野菜を含めて30以上の作物を栽培しています。

研究熱心なのは親譲り。無添加にこだわ

食感が残るぶどうジャムを使ったアレンジメニュー(料理提供 山崎 亮子氏)



ラベルのデザインも千沙子さんのセンスが生きる。



「他には無い」味を目指して、例えば生姜を効かせたジャムなど、時には失敗も繰り返しながら、独学で加工技術を磨きあげています。真面目なモノづくりに対する姿勢は、農家女子の仲間からも信頼され「うちの農産物を使って」と商品開発や製造を頼まれることも。

「これまで100を超える商品を開発している中で、楽しいことはたくさんある」と「思わぬものが売れること」と笑顔の千沙子さん。大型特殊自動車免許もお持ちですが、消費のトレンドを探りながら、今は専ら加工室にも日々です。「好きたからジャカクも植えました。おかげで春は大変でした」と、「面白い」農業へのしなやかな挑戦はまだ続きます。



ふるさとを創る  
土地改良施設を水辺から  
眺めたお話

# カモ親子の 農村日記



堤長	103.33m
堤高	15.115m
有効貯水量	480,000m <sup>3</sup>
洪水吐ゲート	10門
排砂ゲート	2門

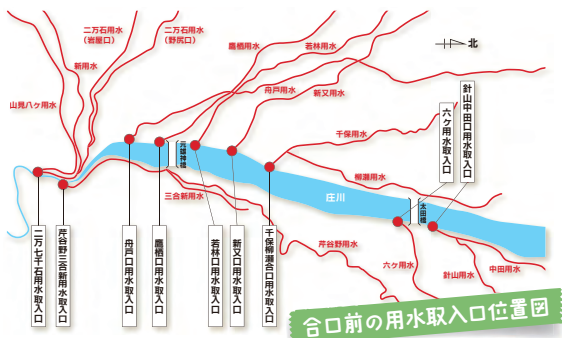
庄川用水合口ダム諸元

また、大小の旧河川跡地には、庄川から各用水路が引かれて新田開発が進み、いくつもの村が誕生しました。しかしながら、洪水ごとに取水施設が壊され、濁水時には下流の取水口で水争い此起彼伏など、庄川からの安定した用水の確保に苦労が絶えませんでした。

## 庄川用水合口ダムの建設

1922年に建設が認可され、当時は東洋一と称された小牧ダム(水力発電ダム)の建設は、農業用水の取水に困難を極めていた庄川流域農民にとって、用水合口ダム建設の技術的可能性を一気に現実的なものとなりました。

1925年、根尾宗四郎を会長とする庄川取入用水合口期成同盟会が結成され、用水の合口化の動きが加速し、そして、1927年に県営による用水合口第一期事業が始まりました。旧取水口間の調整が難航しましたが、1934年に合口ダム工事に着手し1939年に完成に至りました。併せて、旧取水口をつなぐ幹線用水路が整備され、戦時下の1943年、ついにかんがい面積1万一千ヘクタールにおよぶ合口事業が完了したのです。



## 農業用水が潤す 美しい散居村

戦後間もない1947年には物資が少ないながらも県営二万石用水改良事業が着手されるなど、合口ダムと砺波平野の農地をつなぐ幹・支線用水路が次々と整備されていきます。また、1960年代からほ場整備事業が盛んに実施されたことで、大型農業機械による効率的な営農が可能となるなど、砺

# 美しい散居村を潤す

## (庄川用水合口ダム)

### 庄川の活用のはじまり

富山県西部に広がる砺波平野は、その東端を南北に貫く庄川が運んでくる土砂によって形成された扇状地です。雄神河紅におう乙女らし(カシノ) 兼附とると 瀬に立たつらし(カシノ)

この歌は、越中国守であった大伴持が西暦748年の春の地方巡行の際、雄神川の川辺で詠んだ歌です。当時、庄川は旧庄川町のあたりでいくつかの川に分かれて砺波平野を流れていましたが、雄神川はそのうちのひとつとされています。



▲聖牛と蛇籠を配した導入堰

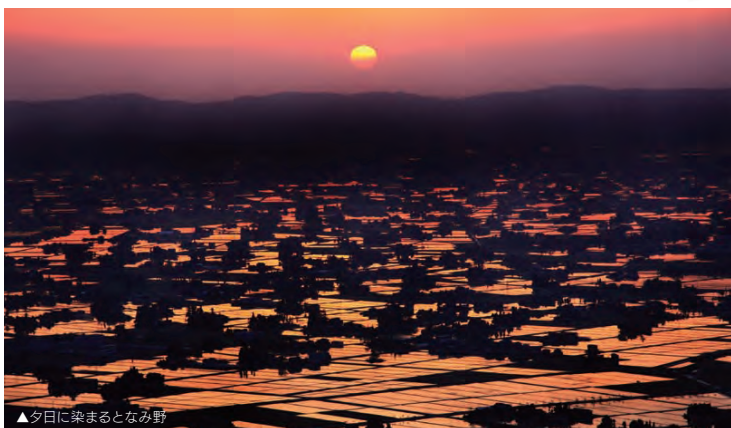
当時の人々は、幾筋にも分かれた大川の河川から水を引き、生活用水や農業用水として使用していました。中でも砺波市祖泉に開削した用水路は、幅10mにも及び、米やゴマ油等の農産物を運ぶ運河としても利用していました。

### 加賀藩の治水工事 (松川除の築堤)

1586年1月、本州中部全域に渡る天正大地震が発生し、それが起因となって新たな庄川の分流となる中田川が庄川扇状地東端にできました。加賀藩は、初代藩主前田利長の菩提寺として造営中であつた瑞龍寺を水害から守るため、庄川扇頂部(弁財天社付近)に長さ1.5kmに及ぶ堤防を築造し、中田川を川筋とする庄川の一本化を図りました。工事は1670年から1714年までの45年間にわたり、膨大な労力と費用が投入されました。なお、1807年にこの堤防の根固めのため松が数百本植栽されたことから、それ以降この堤防は松川除(まつかわよけ)と呼ばれています。

波平野は県内最大の穀倉地帯となりました。農業用水は、かんがい用水としてのみならず、地域の自然生態系の維持や防火、消流雪、地下水の涵養、景観の保持、小水力発電への活用等の役割を担っています。

山々に降り積もった雪が春には解け出し、用水によって砺波平野の水田に張り巡らされます。鏡のように夕日を映し出す美しい散居村は、日本の原風景として、また郷土の誇りとして大切に受け継がれています。



▲夕日に染まるとなみ野

## 施設見学会



### 聖牛(ひじりうし)

河川の水勢を緩和させるための装置。多くの丸太で三角錐を横に倒したような構造物をつくり、いくつもの蛇籠をのせたもの。

### 蛇籠(じゃかご)

鉄線や、古くは竹などで粗く円筒形に編んだかごに石を詰めだもの。河川の水流制御や護岸などに使われた。

### 合口化(ごうくちか)

多数の用水取入口がある河川において、取水の安定化や水利用の合理化のため、取水口を統廃合すること。

土地改良広辞苑



▼CM・パッケージ発表会



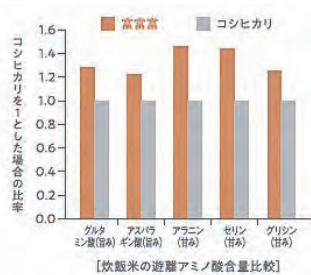
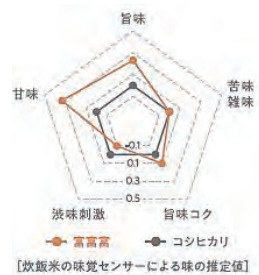
◀「富富富」パッケージ

◀デビュー記念イベント（日本橋三越本店）

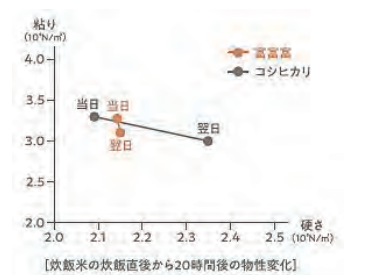
**ブランド化への取組み**  
 本格デビューに向け、富山県では「富富富」のブランド化を大切に進めてきました。平成30年2月には、富山県美術館でキャッチコピーとロゴデザインを発表。キャッチコピーの「うまみ・あまみ・ふと香る」は、「富富富」の魅力を端的に表現し、「ほほえむうまさ、富山から。」には、「ふふふ」とほほえむ幸せを、この富山からお届けしたいという思いが込められています。  
 ロゴデザインは、白地に赤の「富」の文字の形の変化に、古来から米づくりを支えてきた人々や稲作文化の歴史をなぞらせ、金色の稲穂を左右にあしらって富山米を代表するブランドとしての高級感を演出しています。

**「富富富」のデビュー、そしてこれから**  
 平成30年10月11日、ついに富山米新品種「富富富」がデビューを迎えました。県内外一斉販売となったこの日は、日本橋三越本店においてデビュー記念イベントを開催。来場者の反応からも首都圏での関心の高さがうかがわれました。  
 生産面においては、平成30年産「富富富」の一等米比率が約99%と品質の高さを示したことや好調な販売状況も後押ししたこともあり、県が実施した平成31年産の生産者募集には684の経営体が応募。収穫量は昨年約2倍となる5500トンを見込んでいます。  
 引き続き、県内はもとより全国の消費者から愛され、選ばれ続ける「お米のトップブランド」となるよう、積極的なPRや高品質・良食味生産に取り組みしていきます。どうぞご期待ください！

Point 1 きわだつ旨みと甘み



Point 2 時間が経っても、硬くなりにくい



# 富富富

うまみ。あまみ。ふと香る。  
 ほほえむうまさ、富山から。



富山の水、大地、人が育てた富山づくしの「富富富—ふふふ—」が、満を持してデビューしました。美味しさに思わず「ふふふ」とほほえみかこぼれるこの新しいお米を、全国で広く愛される「トップブランド」として育てていきます。



▲倒伏しにくい「富富富」（左は「コシヒカリ」、右は「富富富」）

**目指したのは「プレミアム米」**  
 富山県が開発に取り組んだのは、高品質で美味しさを最大限に発揮する「プレミアム米」。約15年の歳月をかけた努力が実を結び、生産者・消費者いづれにとっても最高のお米が生まれました。  
 「富富富」は、コシヒカリよりも高温に強く、草丈が短いため倒伏しにくい。つえ、いもち病にも強い。ため農薬の使用量が節減できる。といった栽培しやすい特長を持っています。さらに生産者を登録制とし、徹底した栽培管理により安全・安心も追求しています。  
 平成30年産については、県内469の経営体により518ヘクタールで作付けられ、約2600トンが収穫されました。

**美味しさのヒミツ**  
 栽培面だけでなく、特筆すべきはその味です。「富富富」は、粒ぞろいや炊き上がりの香りとつやの良さに加え、コシヒカリと比べ炊飯米の遊離アミノ酸含有量がきわだつ旨みと甘みが広がります。また、時間が経っても硬くなりくいいため、炊飯直後の美味しさが保たれます。



CM「新しいお米の名前は？」篇より

「富富富」のデビューまで

平成15年～	高温でも高品質なお米の遺伝子の検索・特定に着手
平成24年～25年度	3つの特性(①高温に強い ②草丈が短く倒伏に強い ③いもち病に強い)をコシヒカリに交配
平成26年～28年度	約3千の個体から、3つの特性を併せ持ち、食味の最も優れた1系統を選抜し「富富富」と命名
平成29年度	県内23か所で栽培実証キャッチコピー、ロゴデザインを発表
平成30年度	本格デビュー



### Ⅲ スマート農業の普及に向けたモデル農場の設置

県では、各地域や経営体の特性に応じて、各種のスマート農業技術を組み合わせたモデル農場を設置。農業者の皆さんに直に体感していただくとともに、スマート農業普及の拠点としています。平成30年度～31年度、取り組むモデルを紹介します。

#### 大規模経営型モデル〈高岡市〉

200筆を超えるほ場管理に対応

##### 自動直進田植機

GPS機能により、経験の少ないオペレーターでも、まっすぐな田植えが可能。



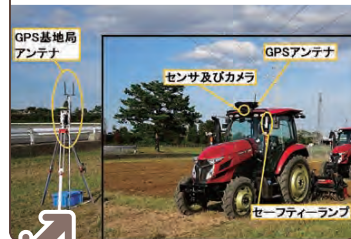
##### 収量コンバイン

収穫時に、ほ場毎の収量や食味の測定を行う。測定結果をもとに、翌年の施肥に反映。



##### ロボットトラクタ

無人トラクタによる超省力的で効率的な作業が可能。



#### 経営管理システム

数百筆のほ場管理が可能。(施肥や農薬散布の状況など)

#### 中山間地域振興型モデル〈富山市八尾町〉

小区画で不整形のほ場や大きな畦畔法面の管理に対応

##### 自動給水栓



畦畔法面が大きく急傾斜のため、危険できつい作業となっている除草について、自動化が可能。

遠く離れたほ場でも、スマートフォン等から自動給排水が可能。水管理作業の省力化が図られる。

##### 除草ロボット



### スマート技術が拓く未来の農業

ロボット農機や自動飛行ドローンなどは、農作業の圧倒的な効率化が期待される新しい技術です。また、今後、GPS技術の進展や次世代通信網(5G)の整備、ロボット農機を活用するための法整備といった社会インフラが整えば、スマート農業は急速に普及すると考えられます。

そう遠くない未来には、AI(人工知能)を搭載したスマート農機が、人間がいなくても農作業を行うという、映画のワンシーンのようなことが現実となるかもしれません。

## 先端技術で農業を“スマート”に!

とやま型スマート農業の推進



意欲ある若い生産者を育成し、農業を収益性の高い成長産業として発展させていくためには、農作業の省力化や熟練農家が蓄積してきたノウハウの継承などを早急に進めていく必要があります。近年、民間企業等において開発されたICT(情報通信技術)やロボット技術を利用した機械やシステムが急速に市場展開されており、県ではこのような技術を活用した「スマート農業」を現場で推進するため、今年度から、様々な取り組みを行っています。

### I 推進体制の整備

県農林振興センター、JAなどの農業団体、生産者代表、商工関係機関、民間企業等で構成される「とやま型スマート農業推進コンソーシアム」が核となって、

- ① 課題解決に向けた農業者等のニーズ把握
  - ② 本県農業に適したスマート農業技術の検討
  - ③ 開発メーカーへの機械の開発・改良等の要望
  - ④ スマート農業を指導できる人材の育成
- などを行っています。



▲現地検討会の様子

### II 新開発の農業機械・システムの検証

県農林振興センターや県農業研究所では、現地農家の協力を得ながら、新たな農業機械の性能やシステムの導入効果など個々の技術について検証しています。

平成30年度は、用排水路の形状(開水路、パイプライン)に対応した自動給水栓による水管理や、ドローンを用いたリモートセンシング(※)による水稻の生育診断の検証を行っています。

#### (※) ドローンによるリモートセンシング

特殊カメラを積んだドローンで水稻を上空から撮影し、生育状況を画像(生育マップ)により把握する技術。得られたデータは、生育状況にあわせた施肥等に活用できる。



▲自動給水栓(開水路型)

# 第8回「とやまの農山村写真展」



## 受賞作品

「とやまの農山村写真展」は、富山県の豊かな農山村風景を後世に守り伝えることを目的に開催しています。

作品をご覧いただいた方が富山県の魅力を再発見する、良いきっかけになるものと思っています。応募総数206作品(一般130作品・ジュニア76作品)から、富山県知事賞(最優秀賞、優秀賞)、富山県土地改良事業団体連合会長賞(棚田賞)及びとやま棚田ネットワーク会長賞(特別賞)の各受賞作品を紹介します。

最優秀賞



一般部門

「鎮守の杜」細川 潤 (上市町)



ジュニア部門

「けん玉と自然」飯田 朱莉 (南砺市)

(敬称略)

優秀賞

一般部門

「つかの間の満開」倉内 学 (金沢市)



一般部門

「柿とばあちゃん」笹田 望 (南砺市)



ジュニア部門

「のどか」堀 天樂 (上市町)



棚田賞

一般部門

梶原 隆  
杉山 邦雄

ジュニア部門

稲葉 菜

特別賞

一般部門

山田 正昭  
永森 一則  
堀 幸甚  
小西 廣子  
小前 千夏  
東 句美子

ジュニア部門

高林 優羽香  
山田 彩寧  
齊藤 天蘭  
片岸 和哉  
菅原 大晴  
長田 彩花



受賞作品は「とやま棚田ネットワーク」のホームページでご覧いただけます。とやま棚田ネットワーク [検索](#)

# 塾生募集!

# とやま帰農塾2019

Welcome To

KinouJyuku

田舎暮らしや移住・定住に関心のある方、農林漁業を体験してみたい方、富山の農山村で自然と歴史、農業と食文化を学び合い、体験しませんか?

**国吉塾** (高岡市) 9/22(日)~23(月祝) 稲刈り・牛の餌やり・搾乳

**灘浦塾** (氷見市) 8/8(木)~10(土) 自然農の夏野菜収穫&料理

**黒部塾** (黒部市) 11/16(土)~17(日) 押し寿司づくり

**笹川塾** (朝日町) 5/31(金)~6/2(日) わさび畑の管理

**立山塾** (立山町) 10/25(金)~27(日) 和紙原料づくりと和紙製作

**やまがみ村塾** (富山市) 11/8(金)~10(日) そば打ち

**五箇山なま畑塾** (南砺市) 8/21(木)~23(金) なま畑の尖入れ

**ながはみ塾** (富山市) 10/12(土)~14(月祝) 循環型無農薬/有機栽培の農作業体験

**砺波塾** (砺波市) 10/5(土)~6(日) 稲刈り・ついでに蕎麦・味噌作り

**井波塾** (南砺市) 10/18(金)~20(日) 里芋掘り

**参加費**

2泊3日	一般 15,000円	学生 10,000円
1泊2日	一般 8,600円	学生 5,800円

ご家族・ご友人同士で、お誘い合わせの上ご参加ください!

平成31年度の各塾のスケジュールは、HPをご覧ください。

お申込み・お問い合わせ

グリーンツーリズムとやま  
TEL/076-482-3161 FAX/076-482-3635  
[E-mail] info@gt-toyama.net

富山県農村振興課  
TEL/076-444-3380

とやま帰農塾 [検索](#)

今回ご登場いただいたのは、入善町の(株)アグリたきもとの皆さんです。海道瑞穂(かいどうみずほ)さんは、脱サラして農業を営んでいた父・瀧本敏さんの「これからは女性の時代。女性だからさせないということにはならない」との考えのもと、平成22年に法人化する際、代表取締役に就任。社員は現在、瑞穂さん夫妻とご両親、実姉に従業員2名を加えた7名です。

社のコンセプトは、「農業をもっとおしゃれに!」。作業場の無機質な鉄骨をシンボルカラーのピンクにしたり、女性専用休憩室を設けたり、女性代表ならではのセンスや気配りが発揮されています。一方で、現場では自ら大型トラクタを操り、「稲作は男性が中心」という固定観念を見事に覆しました。

農業生産においては、敏さんや母・みどりさんのバックアップのもと、水管理や土づくり、除草の徹底などにより高品質、高収量を実現し、次第に周囲の信頼を獲得。「預けるならたきもとさんに」と信託される農地も増加し、経営面積は平成22年の45haから平成29年には100ha超へと急速に拡大しました。

8集落にわたる経営農地では、農地が持つ多面的機能を維持・発揮するための共同活動にも積極的に協力しているほか、荒廃農地の解消に努めるなど、周辺地域の環境保全にも大きく貢献しています。

こうしたことが認められ、(株)アグリたきもとは、平成29年度全国優良経営体表彰(経営改善部門)で見事、農林水産大臣賞を受賞しました。これからも瑞穂さんを中心に農業のイメージを変革しつつ、これからの地域農業をけん引していかなれることでしょう。



海道 瑞穂さん

## 株式会社 アグリたきもと

設立/平成22年3月2日

〒939-0664  
富山県下新川郡入善町蛇沢29-4  
TEL.0765-32-3444  
FAX.0765-32-3445  
http://agritakimoto.com

生産品

経営面積110ha  
水稲(コシヒカリ・ミルクiewicz)58.5ha  
大豆52ha/ジャンボ西瓜0.2ha  
ハウスネギ、ブルーベリー、イチジク etc

### Information

## とやま地産地消顕彰のご紹介



富山県では、県民の皆さんが積極的に地産地消に取り組む気運の高揚を図ることを目的に、地産地消の優良な取組みを表彰しています。

平成30年度

### とやま地産地消 優良活動表彰

地域と連携・協力して地産地消に取り組み、優良活動と認められた企業・団体を「優良活動賞」として表彰しています。

#### 優良活動賞

愛菜畑  
(入善町)



▲収穫祭で野菜たっぷり鍋を振舞う ▲さつま芋掘り体験

#### 優良活動賞

いきいき直売の会  
(氷見市)



▲小ギク親株管理研修会



▲ブルーベリーせん定講習会

平成30年度

### とやま地産地消 メニューコンテスト

学校給食・社員食堂、外食・弁当等において、生産者との交流促進等の取組みを伴った地産農林水産物を食材として活用したメニューを募集し、優れたものを表彰しています。

#### 最優秀賞

滑川市学校給食共同調理場

【まるごとたまねぎ給食】

- 旬のたまねぎをメインにした、「豚肉の新たなねぎソース」、「オニオンサラダ」、「たまねぎのみそ汁」などたまねぎが丸ごと味わえる献立。
- デザート「塩キャラメルプリン」には、全く火を使わずに天日干しの塩を作ることができる製塩施設で海洋深層水から作った塩を使用。



優秀賞

立山町学校給食センター

【心も体も栄養満点 ふるさと立山たっぷり給食】

【にゅうぜん味菜(入善町)】

【にゅうぜん味菜カレーランチ】

愛彩グループ(高岡市)

【愛彩まごころ弁当】

詳しくは、「越中とやま食の王国」ホームページ (<http://www.shoku-toyama.jp>) をご覧ください。

日本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません。

日本誌の内容が富山県ホームページでもご覧になれます。<http://www.pref.toyama.jp/>

ふるさと夢とやま 検索

第40号 平成31年3月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに棚田地域水と土保全基金で発行されています。

発行

富山県 富山県農林水産部農村振興課

〒930-0004 富山市桜橋通り5番13号 富山興銀ビル4階

TEL 076-444-3380 FAX 076-444-4427

富山県農村環境創造基金

<http://www.pref.toyama.jp/sections/1605/noukan/index.html>

とやま棚田ネットワーク

<http://www.nn-toyama.jp/tanada/tanada.htm>

編集



水土里ネット富山

〒939-8214 富山市黒崎17番地

TEL 076-424-3300(代) FAX 076-424-3332

<http://www.tym-midorinet/tomidoren>

この冊子は再生紙を使用しています。